

【森町】オンラインワークショップ結果の概要

- 「未来の森町に必要なこと」をテーマとして11月20日（木）～1月31日（土）に開催されたオンラインワークショップでは、AIがファシリテーションを行い、24時間投稿可能なプラットフォームを活用して、18名の方から61件の意見をいただきました。
- 投稿者の年齢は30代が33%と最も多く、次いで40代が22%となっています。性別は男性が56%、女性が22%でした。
- 投稿時間帯は、9時台が最も多く、次いで18時台が多くなっています。投稿曜日は平日の金曜日が最も多い結果となりました。

1. 調査内容

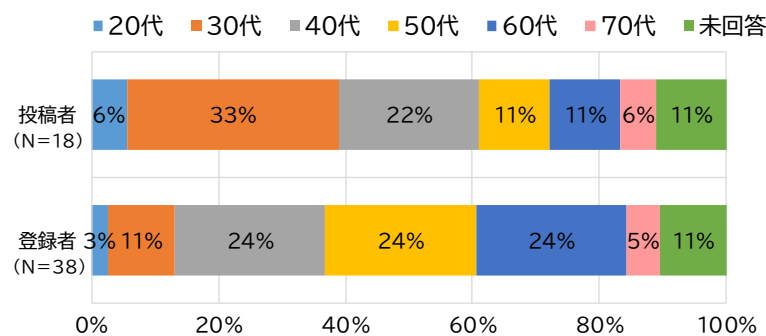
項目	内容
調査名称	未来の森町に必要なこと
調査期間	令和7年11月20日(木)～令和8年1月31日(土)
調査目的	第10次森町総合計画策定に向けた意見聴取
調査対象	・森町に住居・通勤・通学している方 ・森町に関わりのある方
調査方法	・オンラインプラットフォーム「D-Agree」を活用して、対象者にユーザー登録していただき、意見を投稿いただいた。 ・チラシ配布、町広報、町HP、公式LINE等により周知した。
総投稿数	61件(うちAIファシリテーションを除く:45件)
参加者数	本テーマでの新規登録者数:38名、閲覧者:44名、投稿者数:18名

評価項目	目標	結果	備考
参加率	30%	34%	新規登録者数のうち投稿した方の割合
1人あたりの投稿数	1.0以上	0.95	新規登録者数を母数とした際の投稿数(AIファシリテーションを除く)

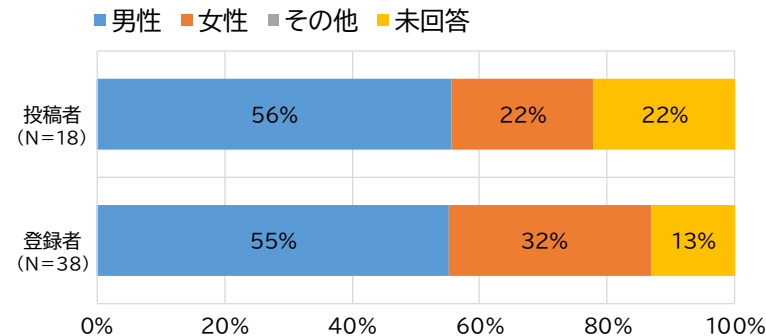
▼チラシ

2. 参加者属性

【年齢】

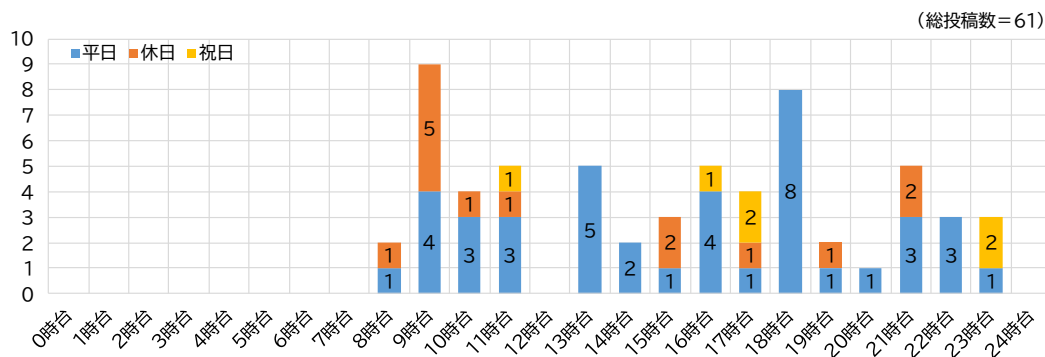


【性別】

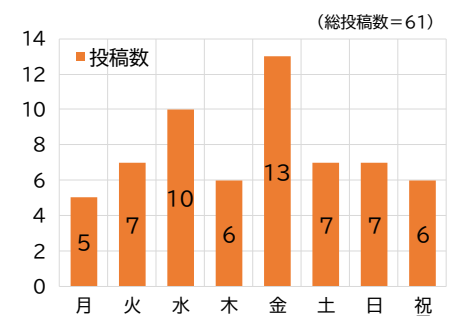


3. 投稿日時等の特徴

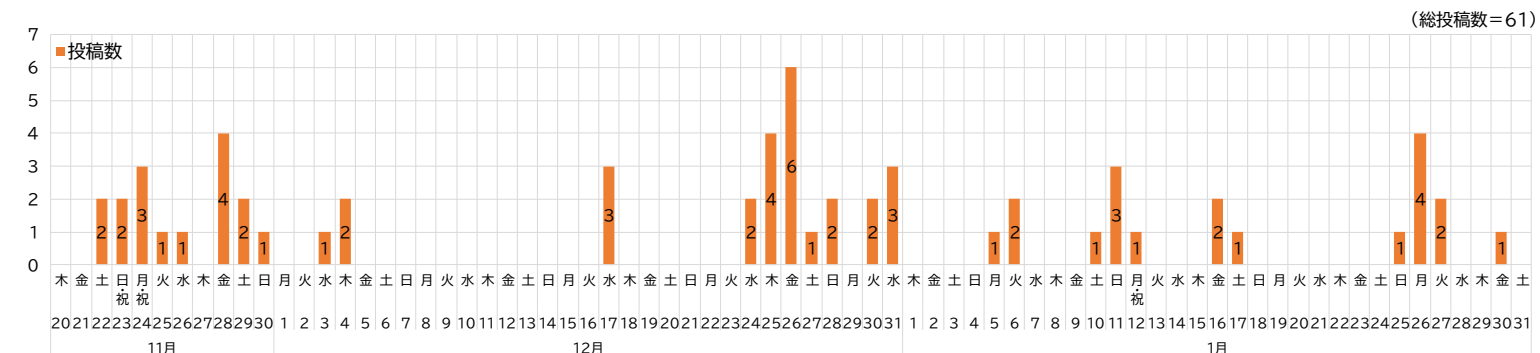
【平日・休日、時間帯別投稿数】



【曜日別投稿数】



【日付・曜日別投稿数】



【森町】オンラインワークショップ結果の概要

- 投稿された意見を分類すると「産業振興」に関するものが最も多く21件、次いで「行財政運営」と「地域振興」に関するものが多く18件でした。
- 「産業振興」については、企業誘致に関する意見が最も多く、新東名ICなどの恵まれた立地を活かして町に活力を生み出すことが必要だと考える方が多い結果となっています。
- 「行財政運営」については、財政の中長期的な健全化とスクラップ&ビルドの必要性を指摘する声が多く、また、企業誘致は財政基盤の強化策としても重要とみられています。
- 「地域振興」については、地域活動の負担軽減や商業機能の立地誘導など、若い世代が住み続けにくい構造的課題の解消と、生活圏の再設計が求められています。

3.意見の内容

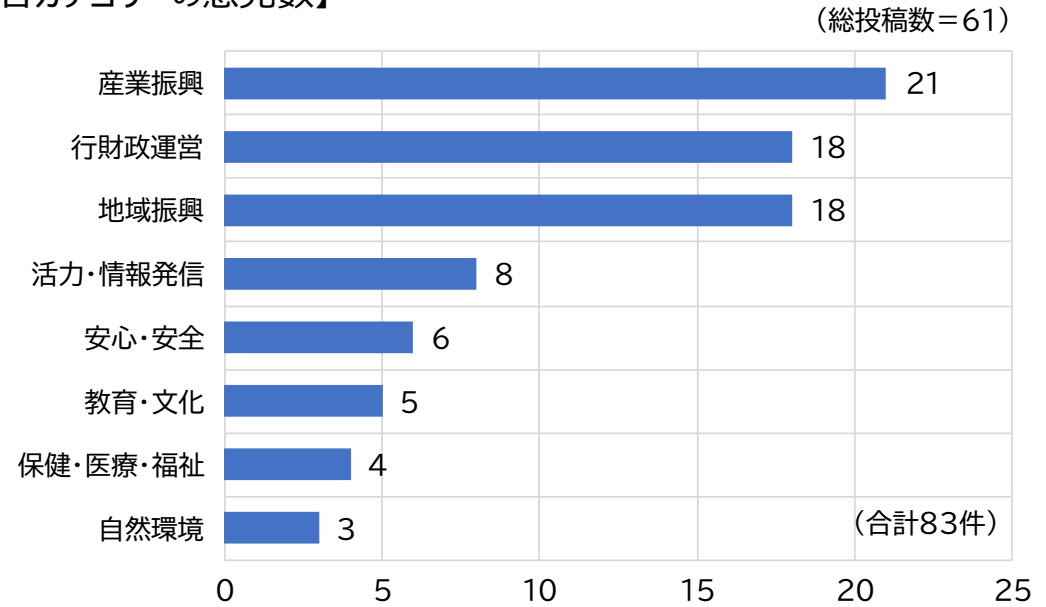
【分類】

カテゴリー	詳細
1. 保健・医療・福祉	・地域医療、福祉、子育て
2. 教育・文化	・教育、文化
3. 活力・情報発信	・交流拠点、情報発信(広報)
4. 産業振興	・企業誘致、農業の振興、観光産業
5. 安全・安心	・公共交通、地域防災
6. 自然環境	・自然環境
7. 地域振興	・移住・定住、都市計画(インター周辺の土地の利活用)
8. 行財政運営	・運営方針、組織戦略・改革

※カテゴリー1～6までは森町第9次総合計画の「基本の柱」を踏襲

※1つの意見に複数のカテゴリーが含まれている場合は、それぞれのカテゴリーでカウントしているため実際の投稿数より多い結果となっている

【各カテゴリーの意見数】



カテゴリー	実際の意見(一部抜粋)	カテゴリー	実際の意見(一部抜粋)
1. 保健・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援センターの量とアクセスの改善。 ● 子育て世帯への経済的支援の強化(全世帯・ひとり親双方の安心)。 	5. 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 森町は車が無ければ暮らせない。子供達や高齢者の移動制限になっている。 ● 防災体制の強化:避難所単位の役員(女性比率向上)、要援護者情報の適切な共有、OB人材台帳、訓練の定例化、災害対策本部の拠点再検討(アリーナ等、交替制・仮眠スペースの確保)。 ● 受入多様性に関するルール整備と相談窓口(町民の安心・安全を最優先に)。
2. 教育・文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 小中一貫・統廃合を先送りせず、合意形成を計画的に。通学安全・交通動線を含め設計。 ● 自由度の高い学びと夜間学習の場で教育・学習環境を底上げ。 ● 図書館の夜間学習スペース拡充。 	6. 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然・歴史は、差別化資産として過度な商業化を避け、守りながら活かす。 ● 山地活用(トレイル、アクティビティ、温泉調査など)を持続可能性の視点で検討する。
3. 活力・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ● SNS運用を戦略化(UGC誘発、短尺動画、ハッシュタグ設計、聖地化)。 ● 集客施設やイベントは発信とセットで回遊・滞在につなげる。 ● 大規模公園・屋内施設、雨天でも遊べる管理型の安全な居場所の設置。 	7. 地域振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校の近くに大規模的に分譲地を作り、町内の住宅工務店協力でコスパの良い住宅を提供する。 ● 杏林堂の進出は大きな機会。買い物とカフェ等が成立するエリア整備。 ● 地域活動(町内会、子供会、PTA、消防団、祭典役員)の負担が重く、定住阻害になっているため、役割の見直しや公的支援が必要。
4. 産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 新東名ICの強みを活かした企業誘致(物流・製造)を最優先にする。 ● インキュベーション施設整備。 ● 農業は、機械化・共同利用・新技術導入で省力化と若手参入を促進。 ● 観光は滞在時間を伸ばす設計(大規模公園/屋内遊び場/歴史ツアー)。アクティ森の再定義(道の駅化検討、季節イベント強化)。 ● 集客装置(例:さわやか)の誘致は回遊導線の同時設計が必須。 	8. 行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期の財政健全化とスクラップ&ビルドの徹底。 ● 総合計画は現状分析(データ)→優先度→財源裏付けで構成。 ● 企業誘致は財政基盤強化の柱。 ● 議会の議論と透明性を高め、住民参加の可視化をする。